

令和5年度入学者選抜試験問題（推薦入試Ⅰ）

「小論文（地域学部地域学科地域創造コース）」出題意図

【問1】課題文では、全盲の「木下さん」が語るエピソードを紹介しつつ、現代社会において一般的にとられがちな「福祉的な態度」の限界と、それを越えた新たな人間関係のあり方について繰り返し述べられている。これを適切に要約することを通じ、受験者の技能、思考力・判断力及び表現力をみる。要約にあたっては、筆者が引用する「木下さん」の独特な表現や筆者自身の言い回しを的確に用いることも求められる。

【問2】課題文においては、目の見えない人との関わりを「異なる文化に属する人と関わる経験」に比類して、読者の理解を促そうとしている。これを受けて、受験者自身の経験に引き付けて「異なる文化」やそこに「属する人」を想起させつつ、自らの意見を問う。これにより、日頃から地域の様々な課題に興味をもち、多面的な視点からそれら考え、それらを知識として修得できているかをみる。また、主体的に他者と協働して、地域に暮らす人々の幸せと地域の発展に取り組む姿勢が見られるか（主体性・協働性）をみる。さらに、目の見えない人の世界の見え方を「文化」として捉える課題文の意図を汲み取り、「異なる文化」としてどのようなものを取り上げるのかによって、受験者の創造性をみる。